

宇陽再興

～新旧双発型のまちづくり～

（提案の要旨）

かつての賑わいの中心地、現在でも歴史的資源が集積する小幡・清住地区において、まちの個性を活かしながら活力を回復・持続させていくためには、これまで培われてきたヒューマンスケールの街並みというコンテクストを活かすことと将来を見据えた都市機能を導入することを両立して実現していくことが必要である。そのための手法として両者をセットで行う「新旧双発型」のまちづくりを導入し、小幡・清住地区が本来持っていた「暮らし」、「なりわい」、「遊び」というポテンシャルを回復させることにより宇陽（宇都宮の中心地の賑わい）を再興する。

■新旧双発型の暮らしの実現

- ・ 代々地域に住み続ける × まちの魅力に惹かれて新たに入居する
- ・ 歴史的な町屋で暮らす × 見世蔵と調和する新町屋「クラジュー」で暮らす
- ・ 武家屋敷で暮らす × 屋敷型環境共生住宅「エコジュー」で暮らす
- ・ 自治会活動により地縁を結びつける × 住民主体でエリアマネジメントを行う

■新旧双発型のなりわいの実現

- ・ 老舗の伝統を守る × 新しいサービスを提供する
- ・ 地域住民の暮らしを支える施設を確保する × 他所からの人が集まる名所をつくる
- ・ お年寄りの拠りどころとなる場をつくる × 若者の心を惹きつけるスポットを設ける

■新旧双発型の遊びの実現

- ・ 旧街道の歴史を体験する × 街中に現れた公園や路地を楽しむ
- ・ 回遊ルート歩いて廻る × LRTを利用して追分スクエアに立ち寄る
- ・ 山車祭りに参加する × もったいないフェアに出店する
- ・ 地産の銘品を楽しむ × ジャズやカクテルを楽しむ

シナリオとして、【フェーズ1】まちづくりのきっかけとなる公共主体のインフラ整備、【フェーズ2】BIDの資金調達によるまちづくりの推進、【フェーズ3】地域住民主体でまちを維持管理・価値向上していくエリアマネジメント、の3段階で整備・運営を推進し、持続可能なまちづくりをめざす。



山車祭りで賑わう「街角広場」



街の顔となる「追分スクエア」